

| | | | |
|----|-----------|--|--|
| 1 | A型肝炎 | 第55回日本ウイルス学会学術集会 2P213 | 遺伝子型の異なる複数のHAV細胞馴化株における加熱や加圧による不活化効果を検討した。25%アルブミン存在下60℃10時間加熱処理または室温下300～420MPaの1分間加圧3サイクルに対し、HAV細胞馴化株間で不活化効果に差が見られた。Validation試験に使用する株として、加熱や加圧で不活化されにくく細胞で良く増殖するKRM238が適切と考えられた。血液製剤の製造工程に新規不活化法を導入する場合にはValidation試験に使用する株を適切に選定する必要がある。 |
| 2 | B型肝炎 | FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案) | FDAはB型肝炎コア抗原に対する抗体(抗HBc抗体)が陽性となったために供血延期となった供血者のリエントリー・アルゴリズムを提案するガイダンス案を発表した。これまで、抗HBc抗体が2回以上陽性となった供血者は無期限に供血延期とされていたが、本ガイダンスでは2回目に陽性となった後、8週間以上経ってからHBs抗原、抗HBc抗体および高感度HBV NATによってHBV感染が否定された場合は供血可能となる。 |
| 3 | B型肝炎 | Transfusion 2008; 48: 286-294 | 最小感染量を求めるために、遺伝子型Aまたは遺伝子型CのHBVを含む急性期前の接種株をチンパンジーに接種したところ、最小50%チンパンジー感染量(CID50)は各々約10コピーと推定された。最低感染量を接種したチンパンジーにおけるHBV DNA ウィンドウ期は遺伝子型Aでは55-76日、遺伝子型Cでは35-50日、HBs Agウィンドウ期は遺伝子型Aでは69-97日、遺伝子型Cでは50-64日であった。またHBV DNAダブリングタイムは遺伝子型Cの方が遺伝子型Aに比べ有意に短かった。 |
| 4 | B型肝炎 | Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print | 1999年に核酸増幅検査(NAT)によるHBV DNA検出のための最初のWHO国際標準品(サンプル1)が樹立された。同じ血漿から調整され、長期保存された別のDNA検体(サンプル2)およびサンプル1の力価および安定性を多施設で評価した。両サンプルの力価に有意差はなく、凍結乾燥により保存されたHBV DNAが極めて安定であることが確認された。これを受け、WHOは2006年10月にサンプル2を第2の国際標準品として樹立した。 |
| 5 | B型肝炎 | 第37回 日本肝臓学会西部会 2007年12月7-8日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522 | 輸血によりHBs抗体エスケープ変異株に感染し、肝炎を発症した40歳代女性の症例報告である。献血者、受血者の塩基配列の解析を行って感染が証明された。核酸増幅検査を含む献血者のスクリーニングを行っているにもかかわらず、本邦では年間10-20例のHBV感染が報告されている。その原因の一つがHBs抗体エスケープ変異株であるが、本症例のように献血者、受血者ともに塩基配列の解析を行い感染が証明された例はきわめて稀である。 |
| 6 | B型肝炎C型肝炎 | 第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 P-033 | 2007年に医療機関から日本赤十字社に報告された輸血関連感染症の報告数は124例(10月末現在)であり、一昨年及び昨年の同期間に比べ減少傾向にある。内訳はHBVが61例、HCV32例、細菌24例、その他のウイルスが7例であった。ウイルス感染(疑)症例の調査結果により病原体を確認した症例は、HBVの12例とHCVの1例であった。HCVの1例は20プールNAT開始後(2004年8月開始)初めての検出限界以下の献血血液による感染症例であった。 |
| 7 | B型肝炎、E型肝炎 | Veterinary Science in China 2007; 37: 921-925 | 中国の畜殺場から集めたブタの肝臓と血清からDNAを抽出し、PCRを使ってs遺伝子を増幅し配列決定を行った結果、ブタとヒトのHBVのS遺伝子の配列は98-100%の相同性を示した。また、RT-PCRによるHEV RNA検出を行った結果、HEV RNAがブタの肝臓に存在することが示された。 |
| 8 | C型肝炎 | HPS Weekly Report 2008; 42(20): 176-187 | スコットランドで2007年10～12月に349例のHCV抗体陽性新規症例が診断された。2005年と2006年の同時期の新規症例数は各々377例および365例であった。HCV診断の累積数は23686例であり、その内12%の死亡が確認されている。2007年12月31日現在、スコットランド人口の約250人に1人がHCV抗体陽性と診断された。 |
| 9 | E型肝炎 | Am J Trop Med Hyg 2007; 77: 893-896 | スペインの屠殺場の作業員において検出されたE型肝炎感染の初症例を報告する。同定されたウイルスはジェノタイプ3、サブタイプ3fに属していた。患者の血清から分離されたウイルスの部分的配列解析によって、ヨーロッパのヒト株およびブタ株とのヌクレオチド相同性がそれぞれ83.4%-97.3%の範囲であることが明らかとなった。これらの所見は、ブタの感染器官の取り扱いを介して職業病としてE型肝炎ウイルスに感染したことを強く示唆する。 |
| 10 | E型肝炎 | Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 1012-1015 | スペインでブタに曝露しているヒト101名と曝露していないヒト97名におけるHEV感染の有無を調べた。抗HEV IgG保有率は曝露群では18.8%、非曝露群では4.1%であった。ブタに接するヒトの抗HEV IgG保有リスクは5.4倍(P=0.03)であった。HEV感染は養豚作業員の職業病として扱うべきである。 |

| | | | |
|----|------------|---|---|
| 11 | E型肝炎 | Gastroenterol Clin Biol 2007; 31: 1095-1097 | 2006年にフランスの夫婦が南フランスに旅行後に重篤な肝炎を発症し、血清中に抗HEV IgMおよびHEV RNAが検出され、E型肝炎と診断された。2人とも黄疸発症4週間前に生の乾燥ブタ肉を食べていた。この肉から検出されたHEV遺伝子は、患者血清から分離したものと高い相同性を示したことから、このブタ肉が感染源と特定された。火を通していないブタ肉の摂取がHEV感染源となる可能性が示唆された。 |
| 12 | E型肝炎 | Lancet 2007; 370: 935 | 泌尿器外科医がブタを用いて手術の練習をした後、急性肝炎を発症した。患者の血液よりHEV RNAが検出され、HEV感染と診断された。患者のHEVの遺伝子型は3cであり、ブタにしか見られない遺伝子型であった。ブタの血液から感染したものと思われる。 |
| 13 | E型肝炎 | N Engl J Med 2008; 358: 811-817 | 2004年1月1日～2006年12月31日に腎移植(241名)または肝移植(86名)を受けた患者の移植時の抗HEV IgG保有率は、各々14.5%または10.4%であった。この内、肝移植を受けた3名、腎移植を受けた9名、腎臓と脾臓の移植を受けた2名の計14名で急性HEV感染を同定したが、全員血清HEV RNA陽性であり、内8名が慢性肝炎となった。移植から診断までの時間は短く、慢性肝炎に進展した患者ではリンパ球数並びにCD2、CD3およびCD4 T細胞数が有意に低かった。 |
| 14 | E型肝炎 | ProMED-mail20080415.1358 | 香港保健センターは2008年4月14日、E型肝炎感染に対する警告を発し、食物、環境衛生を厳密に観察するよう呼びかけた。最近、E型肝炎感染頻度が増加しているのに対して行われた。 |
| 15 | E型肝炎 | 第55回日本ウイルス学会学術集会 2007年10月21-23日 | 日本国内13のブタ飼育施設におけるHEV保有状況について調査した。各施設につき10箇所の豚房より糞便を採取し、ウイルスゲノムの検出を行ったところ、HEVゲノム陽性率は70%であった。ウイルスは全てIII型およびIV型の遺伝子型に属していた。ひとつのIII型に属するサンプル(swJB-E8)については全長の90%の配列情報が得られ、塩基レベルでのホモロジーはヒトから分離されたものに近いことが明らかとなった。 |
| 16 | E型肝炎 | 第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 O-026 | 北海道地区において現行プールNATスクリーニングの残量を用いてTaqMan RT-PCR法によるHEV NATスクリーニングを行った。陽性献血者85例について追跡調査および遡及調査などを行った。陽性献血者の多くは動物内臓肉を食してHEVに感染したと考えられる新規感染者で、GenotypeはG3が多かった。多くは症状が現れないまま抗体が陽転化し、典型的な無症候性一過性感染の経過をたどった。 |
| 17 | HIV | ABC Newsletter, No.26 2008年7月4日 | 米国医師会(AMA)は、男性同性愛行為を行った男性(MSM)の供血延期期間を生涯としている連邦の方針を5年間に変更することを支持するという声明を採択した。AMAはこの新方針をFDAに通告し、この方針を推し進めるグループと協力していく。FDAは1977年以降、MSMの供血を生涯延期することを血液事業者に要求しているが、アメリカ血液センターなどからは反対意見が出されている。 |
| 18 | HIV | AIDS 2007; 21: 2351-2353 | フランスの新規HIV診断例におけるHIV-2およびHIV-1グループO型の感染率を調べた。2003年1月から2006年6月に10184例のHIV新規診断症例が報告されたが、HIV-2およびHIV-1グループO型感染の割合は、各々、1.8%および0.1%であった。これらの症例のほとんどは、異性との接触により感染した流行地域出身の患者であった。HIV-2感染のうち3例は男性と性的関係を持つ非アフリカ系男性であった。 |
| 19 | HIV | Public Health Agency of Canada/CCDR Weekly 2008年3月28日 | Manitoba Healthの報告によるとカナダManitobaの女性および先住民族の間でHIV感染率が劇的に増加している。過去10年間で新たにHIVと診断された女性は、以前に比較し4倍となった。ここ7年間での新たな感染症例の3分の1がアボリジニであった。マニトバでは1985年から2007年末までに1477名がHIV陽性で、感染者の80%以上がWinnipegの住民であった。 |
| 20 | HIV感染、C型肝炎 | AFP 2007年9月13日 | ペルー保健局は、公立病院で輸血を受けた患者4名が6ヶ月内にHIVに感染したことを受け、国内の240の血液バンクを精査した。44歳女性がHIVに汚染された血液を輸血されたことが報じられた後、当局は、その他に11ヶ月の幼児を含む少なくとも3名がHIVに感染したと発表した。更に、社会安全透析センターに行った患者30名がC型肝炎に感染したことを発表した。HIVおよびC型肝炎問題はペルー保健サービスの汚点である。 |

| | | | |
|----|------------|---|---|
| 21 | HIV感染、C型肝炎 | 日本エイズ学会誌 2007; 9: 541 | 中国では1985年HIV最初感染例報告以来、2005年末報告数は14万人に上った。感染者数は65万人と推定される。現在、34省級区域全てで感染者が存在し、性的経路による新規感染者は49.8%、エイズ死亡率は63.4%である。湖北省HIV感染者報告数は約3500人、54%は血液感染による。HIVは全てB'サブタイプであった。HIV/HCV共感染率は75%で、HCVは78.6%が2a、21.4%が1bであった。 |
| 22 | インフルエンザ | AABB Weekly Report 2008年2月29日 | インフルエンザパンデミックと血液供給に関するAABBの作業部会は、パンデミック時に供血間隔の例外的な取り扱いを認めるよう2月14日にFDAに対し要望書を送付した。パンデミック時には適切な供血者数が制限されることが予想されるため、全血および赤血球採取の間隔を短くすることが最も有効であるとしている。 |
| 23 | インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870 | カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザAウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名のうち54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適応または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。 |
| 24 | インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2007; 13: 1871-1878 | 2004年に、アイオワ州の田舎の住民803名を対象としてインフルエンザウイルス人畜共通感染に関する2年間の前向き研究を行った。アイオワ大学のブタ非曝露者79名と比較して、ブタ曝露者およびその配偶者は、ブタインフルエンザ(H1N1)ウイルスに対する抗体レベルが増加していた。更に、インフルエンザ様疾患データや組換えH1N1ウイルス分離などから、職業的ブタインフルエンザウイルス感染のエビデンスが示された。 |
| 25 | インフルエンザ | USDA/News & Events 2007年12月19日 | 研究者らは、1957年のパンデミック時にヒトに感染したH2インフルエンザウイルス群に属するブタインフルエンザの新しい株H2N3を同定した。この株は分子にねじれがあり、トリインフルエンザとブタインフルエンザ遺伝子の両方から成る。この発見は、ブタがトリ・ブタ・ヒトによって運ばれるインフルエンザウイルスの“mixing vessel”としての役割を担う可能性があるとの更なる証拠を提供している。 |
| 26 | インフルエンザ | Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 40 | 米国におけるパンデミックインフルエンザの血液供給に対する影響をシミュレーションした。3ヶ月間の血液供血量が50%減少した場合、血液需要に制限がない場合は在庫のほとんどを使い尽くしたが、血液の使用を必要最低限に制限した場合は在庫がなくなることはなかった。 |
| 27 | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2008; 14: 308- 310 | イヌにおける自然接触の曝露による高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)の感染性を調べた。H5N1ウイルスを眼-鼻咽腔接種したイヌは2日以内に結膜炎および体温上昇を呈し、鼻咽腔スワブからウイルスRNAが検出された。しかし、接触したイヌやネコには感染しなかった。感染したネコからイヌへの感染も起こらなかった。またH5N1ウイルスに対し、ネコの方がイヌより感受性が高いことが示唆された。 |
| 28 | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2008; 14: 600-607 | 野生のアヒルを実験的にH5N1ウイルスに感染させたところ、キンクロハジロ、ユーラシアホシハジロおよびマガモは、コガモ、ユーラシアヒドリガモおよびオカヨシガモより有意に多くウイルスを排泄することが明らかとなった。キンクロハジロだけでなくホシハジロも発病または死亡した。野生のアヒル種、特にマガモはH5N1ウイルスの長距離宿主である可能性がある。 |
| 29 | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2008; 14: 741-746 | 大韓民国におけるトリ起源の新しいイヌインフルエンザウイルス(H3N2)分離株を実験的にイヌに感染させたところ、鼻汁からウイルスが排出され、血清転換し、発症した。また気管、気管支および細気管支上皮細胞で大量のトリインフルエンザウイルス結合受容体(SA α 2,3-gal)が同定され、家禽からイヌへのトリインフルエンザウイルス(H3N2)の直接伝播の可能性が示唆された。 |
| 30 | 鳥インフルエンザ | Medical News Today 2008年4月8日 Lancet 2008; 371: 1427-1434 | 2007年12月に高病原性トリインフルエンザA(H5N1)ウイルスに感染した2名の家族クラスターが中国Jiangsu省で同定され、調査の結果、息子から父親への限定的なヒト-ヒト感染と考えられるとの記事が2008年4月にLancetに掲載された。両症例から分離されたH5N1ウイルスは1つの非同義のヌクレオチド置換以外は遺伝的に同一であった。 |

| | | | |
|----|----------|---|--|
| 31 | 鳥インフルエンザ | Proc Natl Acad Sci USA Published online 2007年12月18日 | 米国の2つの農場の発病したブタから遺伝学的に相同性であるトリ/ブタウイルスの再集合株のH2N3インフルエンザAウイルスを分離・解析した。これらのウイルスは実験的に感染させたブタおよびマウスで前適合なしで発病させることができた。また、ブタおよびフェレットで感染性があり、高伝搬性であった。H2N3ウイルスは哺乳類宿主への適合性を持つため、その拡大に注意すべきである。 |
| 32 | 鳥インフルエンザ | Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563 | ユーラシアおよび北米系統のH7型トリインフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性を調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3型、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2型は α 2-6結合シアル酸に対する親和性を高めたHAを保有していた。また2003年にニューヨークの男性から分離された低病原性H7N2型はフェレットの上気道で効率的に増殖し、直接接触で感染できることが確認された。 |
| 33 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20070903.2894 | 2006年5月にインドネシアのスマトラ島の女性が家禽からH5N1トリインフルエンザウイルスに感染し、さらに親戚に感染させた。感染した8名の家族のうち7名がまもなく死亡した。米国ワシントン大学の新たな研究により、トリインフルエンザのヒトからヒトへ伝播が初めて確定された。 |
| 34 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080104.0038 | 2007年12月27日、WHOはパキスタンの家族におけるH5N1トリインフルエンザのヒト-ヒト感染を確定したが、感染が拡大する危険性はないと発表した。Peshawarで、感染したニワトリの処分に関わった獣医師とその兄弟3名が肺炎を発症し、処分に関わっていなかったその内の1名が2007年11月23日に死亡し、WHOによりヒト-ヒト感染と確定された。他は全員回復した。 |
| 35 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080110.0134 | 2008年1月10日、中国保健局は、最近、江蘇省で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていないと確定した。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家禽との接触がないため、息子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。 |
| 36 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080218.0656 | 2008年2月18日に中国保健省はHunan省でヒトでのトリインフルエンザ症例1例を確認したと発表した。症例は22才の男性で、1月16日に発症し、1月24日に死亡した。中国CDCはH5N1陽性であることを確認した。 |
| 37 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080221.0710 | 2008年2月21日、中国保健省は29例目のH5N1トリインフルエンザ症例/19例目の死亡例を確認した。Guangxi Zhuang自治区Nanning Cityにおいて41才男性が2008年2月20日に死亡し、H5N1検査に陽性であった。2月18日にはHunan省でヒトでのトリインフルエンザ死亡症例1例を確認しており、今月2例目のトリインフルエンザ死亡例である。 |
| 38 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080225.0758 | WHOは中国でヒトにおけるトリインフルエンザの29例目の症例および死亡19例目を確認した。また、2008年2月25日に香港政府は、中国南部Guangdong省の44才の女性がH5N1トリインフルエンザウイルスに感染していることが疑われていると報告した。この症例は同年2月16日に発症したが、診断はまだ確定されていない。中国における30例目のトリインフルエンザ疑い症例である。 |
| 39 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080226.0784 | 中国南部Guangdong省の44才の女性がH5N1トリインフルエンザウイルスに感染し、死亡した。病気の家禽から感染したと思われる。中国で確認された30例目の症例/20例目の死亡例である。 |
| 40 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail20080408.1292 | 2007年12月にトリインフルエンザにより死亡した24歳の中国人男性は、52歳の父親に直接ウイルスを感染させた(ヒト-ヒト感染)と、2008年4月7日に医師が報告した。中国当局は息子から父親に感染したと考えていると発表していたが、遺伝子配列や他の検査から裏付けられた。 |

| | | | |
|----|-------------|---|---|
| 41 | 鳥インフルエンザ | Public Health Agency of Canada/CCDR Weekly 2008年1月11日 | 2007年12月10日中国保健局は、トリインフルエンザに罹った息子と父親の間の因果関係を調査中であるが、ウイルスが新種に突然変異したとのエビデンスは見つかっていないと報告した。先週 Jiangsu省で52歳の父親は、24歳の息子が同疾患で死亡した後、H5N1トリインフルエンザと診断された。新華社通信によると、息子は死んだ家禽と接触しておらず、Jiangsu省では家禽でのアウトブレイクは報告されていないとのことである。 |
| 42 | 鳥インフルエンザ | Vector-borne Zoonotic Dis 2008; 8: 105-109 | 2005年10月のタイ中部における高病原性トリインフルエンザのアウトブレイク中に養鶏場で採集された充血した蚊をRT-PCRで調べたところ、H5N1ウイルス陽性であり、H5およびN1断片のシーケンスにより確定された。このウイルスの感染性および複製はC6/36蚊細胞系で確認された。家畜や動物の血で充血した蚊を採集し検査することはH5N1ウイルスの拡大を調査するための有用な方法である。 |
| 43 | 鳥インフルエンザ | WHO 2008年4月3日 | パキスタンにおけるトリインフルエンザの状況 (update2) : 血清学的検査で更に2例のH5N1症例が確定され、パキスタンPeshawarでの家族クラスターに関する最終的なH5N1感染検査結果が得られた。これらの検査結果は2007年12月の調査結果から得られた疫学的知見を支持するものであり、限定的なヒト-ヒト感染が発生したが、共同体には拡大しなかったことが示された。 |
| 44 | ウエストナイルウイルス | J Med Virol 2008; 80: 557-563 | 中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人供血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。 |
| 45 | ウエストナイルウイルス | Rev Panam Salud Publica 2006; 19: 112-117 | 文献および未発表データから、ラテンアメリカやカリブ海地域のウエストナイルウイルス(WNV)感染の現状をまとめた。WNV感染は2001年にCayman諸島とFlorida Keysの住民で見られ、2002~2004年にジャマイカ、メキシコなど周辺地域で動物や鳥類での感染が確認されている。しかし、疾患報告数は少ない。この不可解な熱帯生態系でのウイルス減弱または他の可能性を検討するためには分離株が必要である。 |
| 46 | 日本脳炎 | ProMED-mail20071201.3877 | 2007年11月30日インド保健省は、今年Uttar Pradeshで約500名が日本脳炎で死亡したと発表した。2007年11月23日までに、州当局は2450例の急性脳炎症候群および499例の死亡を報告した。 |
| 47 | 日本脳炎 | 第39回日本小児感染症学会総会・学術集会 2007年11月9-11日 | 日本脳炎ウイルスに関する2006年度感染症流行予測調査では、ヒトで4自治体1197人、ブタで33自治体5349頭を対象に調査を行った。ヒトにおけるNT抗体価1:10以上の抗体保有状況は、1-3歳で10%未満、4歳で約20%、5歳で約80%であった。ブタでHI抗体が1頭以上確認された自治体は27あり、うち抗体保有率50%以上は17、更に12自治体では80%以上であった。2004年度と比較して抗体保有率が急増する年齢が年長側にシフトし、5歳未満に感受性者の蓄積が認められた。 |
| 48 | BSE | Canadian Food Inspection Agency 2008年2月26日 | 2008年2月26日、CFIAはAlbertaの6歳の乳牛をBSEと確定した。カナダで12頭目のBSE牛である。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。当該牛は2001年12月21日生まれであった。国際ガイドラインに基づいた疫学的調査を実施中である。 |
| 49 | BSE | Canadian Food Inspection Agency 2008年4月16日 | カナダで11頭目のBSE牛に関する調査報告である。2007年12月9日に約3ヶ月半の疾病後、処分されたEast Central Albertaのウシは、予備試験ではBSE陰性であったが、詳しい検査の結果、BSE陽性と確定された。当該牛は1994年3月15日生まれのヘレフォード牛で、死亡時165月齢であった。当該農場で出生し、外に出たことはなかった。出生コホートおよび飼料コホートが実施された。本症例はカナダでは2頭目の非定型BSEであった。 |
| 50 | BSE | J Food Prot 2008; 71: 802-806 | 日本における21月齢より若いウシ由来の牛肉でのBSE感染性リスクと死骸成熟度スコアによって評価される米国からの牛肉におけるリスクとを比較した。日本政府は死骸成熟度スコアがA40以下のウシの牛肉の輸入を許可しているが、A40以下のウシは21月齢未満であると推測され、両国でのBSE保有率が同等であるとする、BSE感染性リスクに差は見られなかった。 |

| | | | |
|----|-----------------|---|--|
| 51 | BSE | OIE/World animal health situation 2008年3月31日 | 1989年から2008年3月までに、英国以外の世界各国から国際獣疫事務局(OIE)に報告された畜牛におけるBSE症例数である。2006年は、スペイン68頭、アイルランド41頭、ポルトガル33頭、ドイツ16頭、日本およびポーランド10頭、フランス8頭、イタリア7頭、スイスおよびカナダ5頭、チェコ3頭、オーストリア、ベルギーおよびオランダ2頭、スロベニア、スウェーデンおよび米国1頭である。2008年には、これまでにカナダ1頭、アイルランド6頭が報告されている。 |
| 52 | BSE | OIE/World animal health situation 2008年4月17日 | 2008年3月までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSE数である。1987年以前は英国全体で446頭であったが、1992年には37280頭となった。その後、減少し、2007年には67頭となった。2008年は3月31日までに10頭報告されている。 |
| 53 | BSE | ProMED-mail20071218.4076 | Canadian Food Inspection Agency(CFIA)は、カナダAlbertaの13才の食用雌牛が牛海綿状脳症(BSE)であることを確定診断した。 |
| 54 | BSE | ProMED-mail20080229.0831 | Canadian Food Inspection Agencyは本日(2008年2月26日)ウェブサイト上で、Albertaの6才の乳牛が12頭目のBSEであることを確認したと発表した。このウシは狂牛病拡大防止のための飼料成分禁止措置が取られた約5年後に生まれた。 |
| 55 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Neuropathology 2008; 28: 51-61 | 硬膜移植に関連した日本人CJD患者の剖検症例5例について臨床病理学的分析を行った。硬膜を小脳テント下に移植された4例における発症時の症状は小脳または脳幹機能障害であり、小脳テント上に移植された1例では大脳皮質症状を示した。亜急性海綿状脳症が1例、全脳型CJDが4例であった。また、シナプス型PrP沈着を示した。初期症状と移植部位に密接な関係があることから、移植部位から近接する脳部位へのCJD直接感染が示唆された。 |
| 56 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Ann Neurol 2008; 63: 697-708 | 米国の国立プリオン病病因調査センターに2002年5月から2006年1月に紹介された患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラークの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ抵抗性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSP)と名付けた。PSPは、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。 |
| 57 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Biochem Biophys Res Commun 2007; 364: 796-800 | 正常な脳ホモジネートを慢性消耗性疾患エルククスの異常プリオンとともにインキュベートするin vitroアッセイを用いて、プリオンの転換について調べた。標準の条件下(pH 7.4)ではPrPCからPrPScへの転換は同種でのみ効率的であったが、酸性条件下(pH3.5)では異種においても転換が著しく促進された。基質の部分変性によって構造上の変化が起こり、遠隔種間の種の壁を越えることが示唆された。 |
| 58 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Channel 4 News/Press Association report 2008年1月2日 | 今までに確認されたことのないタイプのvCJDにより、ヒトでの狂牛病による死亡に対する新たなおそれが浮上している。vCJDで死亡した39歳女性の脳は通常とは異なる損傷パターンを示し、今までの患者とは遺伝的に異なっていた。1980年代に感染牛を食べたことによるvCJD患者に新たなグループが存在する可能性を示唆している。 |
| 59 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | dailypress.com 2008年4月11日 | 米国Portsmouthで、脳変性疾患を呈し死亡した女性の死因を、vCJD疑いのため調査中である。MRIまたは脳スキャンの結果がアトランタの疾病対策センターに送付され、バージニア大学および国立プリオン病病因サーベイランスセンターで更に検査される。結果が出るまでには数ヶ月を要すると思われる。 |
| 60 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPA/Health Protection Report 2(19) 2008年5月9日 | 2000年1月1日~2007年12月31日に、手術を介したCJDへの潜在的な医原性暴露は計329件報告された。2007年7月1日から12月31日の間に11件が追加された。NATA(National Anonymous Tonsil Archive)は2008年8月末までに計61619例の扁桃腺組織検体を受け取った。2007年1月末から扁桃腺組織中の異常プリオン蛋白の有無に関するスクリーニングが行われている。 |

| | | | |
|----|-------------------------|---|--|
| 61 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | J Virol 2008; 82: 3697-3701 | 非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASEウシ由来の脳ホモジネートを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種したところ、60%が20-22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感染ヒト化Tgマウス脳における病因性プリオンのアイソフォームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒトプリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ向性であった。 |
| 62 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | Medgadget.com 2008 年4月9日 | カナダQuebecのProMetic Life Science社は血液中のvCJDプリオンを除去する使い捨てフィルターを開発した。何百万ものペプチドをスクリーニングし、プリオンに最も親和性のあるものを探し、市販の樹脂に固定し、膜状にし、何層にも重ねた。本フィルターは汚染血液からのプリオン除去が可能であった。また、フィルターで処理したプリオン感染ハムスターの血液をプリオン非感染ハムスターに投与しても疾患は発現しなかった。 |
| 63 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231 | 感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめつたに検出されない。新規の酸性SDS沈殿法と高感度化学発光法とを組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タンパクが、スクレイピー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは検出されないことが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集しており、スクレイピー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。 |
| 64 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | PDA Journal of GMP and Validation in Japan 2007; 9: 32-41 | 生物製剤におけるプリオン対策の現状と課題に関する総論である。牛由来材料または人血漿材料を用いて生物製剤を製造する場合、プリオンによる製造原料の潜在的汚染の可能性が存在している。安全対策がより効率的・効果的であるために、さらに発症メカニズムの解析、高感度検出法の開発、除去・評価法の開発が必要である。 |
| 65 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | Pediatr Transplant 2008; 12: 95-98 | 米国で、小腸のBurkittリンパ腫で化学療法を受けた後、同種臍帯血移植を受けた6歳の男児が移植5ヶ月後に致死性の高進行性脳症を発症した。剖検により脳内の海綿状変化が明らかとなり、多くの臨床経過所見がTSEと一致していた。生前および死後の検査では病因を特定できなかった。化学療法や抗ウイルス療法による後天性ミトコンドリア病である可能性は除外できなかった。同種造血幹細胞移植後の海綿状脳症の初めての報告である。 |
| 66 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | ProMED- mail20080303.0878 | 英国で53歳の男性実業家がvCJDで死亡した。この男性は2001年に角膜移植手術を受け、6年後の2007年8月に記憶と平衡感覚に支障をきたし始め、2007年11月13日にvCJDと診断され、診断後10週で死亡した。家族は眼の手術が原因と確信している。 |
| 67 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | ProMED- mail20080410.1311 | 2008年4月7日、スペイン当局は、2005年に初めての死亡例が出て以来のヒト型狂牛病による死亡が発生したと発表した。犠牲者は40歳と51歳で、2007年12月と2008年2月に死亡した。Castile-Leon地方の農相は、今回の犠牲者は明らかに2001年以前に感染しており、それ以後、家畜および食肉生産に対する衛生管理は強化されていると述べた。 |
| 68 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | ProMED- mail20080707.2058 | 英国National CJD Surveillance Unitによると2008年7月4日現在の英国における 確定および疑いvCJD症例数は計167例で、内3例は生存中である。フランスInstitut de Veille Sanitaireの2008年7月7日付け月間集計によると同国で1992-2008年に記録されたvCJD確定および疑い症例数は23例で全て死亡している。 |
| 69 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | Transfusion 2008; 48: 609-619 | ヒツジのリコンビナントPrP (rPrP) のヒツジにおける血液クリアランスならびにスクレイピー関連フィブリル(SAF)静注後のPrPresへの曝露について調べた。rPrPのARR変異型は、VRQ変異型よりもより早く除去された。また、PrPcのARR変異型のクリアランスがVRQ変異型のクリアランスよりも大きいことが示唆された。rPrPの血漿クリアランスは、両腎臓摘出後は52%減少し、rPrP除去に腎臓が重要であることが示された。PrPresはSAF静注後は緩やかに除去された。 |
| 70 | 異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病 | Vet Res 2008; 39: 33 | 1990年代にウシ海綿状脳症が英国で流行したことを受けて、ヒト及び動物において伝染性海綿状脳症を検出するために開発された様々な技法についての総説である。vCJDが輸血により感染しうることが明らかなることから、vCJDの診断に関する血液検査の開発が最優先事項である。 |

| | | | |
|----|-----------------|---|--|
| 71 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Vet Res 2008; 39: 34 | 伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播性を調べるための実験的アプローチ法を要約し、実験における所見と自然発生するTSE(主にウシ海綿状脳症及びスクレイピー)およびコントロール方法との関連性を考察している。 |
| 72 | エボラ出血 | Science and Development Network/Sub-Saharan Africa/News 2007年10月19日 | 科学者らは、コンゴGabonの野生のサルから分離したエボラウイルスは新規の系統に属し、他の株と融合し、新種の株を創生することが可能であることを発見した。このことはワクチン開発に重大な意味を持つ。弱毒化されたウイルスからなるワクチンは、野生ウイルスと融合し、新種を作り、予測や制御がより困難なウイルスがヒトやサルに広がる可能性がある。これらの知見はProc Natl Acad Sciの10月17日onlineに発表された。 |
| 73 | エボラ出血 | WHO/EPR 2007年11月30日 | ウガンダ保健省はウガンダ西部のBundibugyo地方におけるエボラ出血熱のアウトブレイクを確定した。アウトブレイクは2007年9月に始まっていた可能性があり、2007年11月28日現在、死亡例16名を含む51名の疑い例が報告されている。患者の検体から新規のウイルス株が確認された。 |
| 74 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail20080518.1657 | 2008年5月13日までにロシア南連邦地方においてクリミア・コンゴ出血熱18例(死亡2例を含む)が記録された。同地方全域でダニ駆除薬による家畜の処置が行われたが、Astrakhan地域では不十分である。同地方でのクリミア・コンゴ出血熱症例数は2007年には234例で、うち4例が死亡例であった。 |
| 75 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail20080528.1732 | ロシアStavropol Kraiではクリミア・コンゴ出血熱による2例目の死亡例(39歳女性)が記録された。1例目の男性は2008年5月中旬に死亡している。2008年5月26日現在、12地域で患者17例が記録されている。インターネットの情報によるとSouth Federal Okrugにおいて2008年のこれまでにクリミア・コンゴ出血熱による死亡が4例記録されている。これは2007年1年間の総数に当たる。 |
| 76 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail20080709.2092 | 2008年7月7日、トルコのBursa、CanakkaleおよびSamsunの病院でダニ媒介性疾患であるクリミア・コンゴ出血熱により3名が死亡し、この2ヶ月での死者数は37名となった。保健省はダニに注意するよう呼びかけ、咬まれた場合は決して手でつぶさず、医師にピンセットで注意深く取り除いてもらい、ヨードで消毒することを推奨している。 |
| 77 | サルモネラ | CDC 2008年7月8日 | CDCは関係機関と協力して複数の州で発生したサルモネラ血清型セントポールのアウトブレイクを調査している。生のトマトの摂食が原因と考えられている。2008年4月以降2008年7月7日までに、米国の41の州、ワシントンD.Cおよびカナダで991名の患者が同じ遺伝子パターンのサルモネラ血清型セントポールに感染したことが確認された。 |
| 78 | サルモネラ | HPA/Health Protection Report 2(11) 2008年3月14日 | 2008年2月22日以降、HPAの腸管病原菌研究所(LEP)が受け取る、まだ命名されていない同じファージ型パターンを示すネズミチフス菌の分離株数が増加している。パターンは現在認識されているネズミチフス菌のファージ型とは異なり、PT U320と命名された。LEPはイングランドとウェールズ在住者においてネズミチフス菌PT U320感染のヒト症例51例を確定した。分離株は全て抗生物質に対し十分に感受性があった。患者は10ヶ月から92歳で、31例中30例は2月17日から25日に発症した。 |
| 79 | 大腸菌性胃腸炎 | 日本公衆衛生雑誌 第66回日本公衆衛生学会総会 2007年10月24-26日 | 動物における腸管出血性大腸菌の保有状況を調査した。平成18年6月から19年2月に愛媛県内の屠殺場に搬入されたウシ143頭、動物愛護センターに収容されたイヌ71頭、ネコ67頭の直腸便を検査した結果、ウシでは82頭(57.3%)からヒト腸管出血性大腸菌(EHEC)が137株分離され、O157やO26など9種類の血清型が含まれていた。イヌとネコからはEHECは検出されなかった。 |
| 80 | チクングニヤウイルス感染 | CDC/Outbreak Notice 2008年2月11日 | 2008年2月5日現在、シンガポール保健省は同国の地方におけるチクングニヤ熱の可能性症例13例を報告した。狭い地域での症例で、最近の旅行歴のある患者がいないことから、国内の蚊によるチクングニヤウイルスの局所的伝播であることが示唆される。同国への旅行者はチクングニヤ熱の症状に注意し、蚊に刺されないよう注意すべきである。 |

| | | | |
|----|--------------|----------------------------------|---|
| 81 | チクングニヤウイルス感染 | PLoS Med 2008; 5: e60 | 2005年3月-2006年12月にレユニオン島では7504名の女性が7629例の新生児を出産したが、妊産婦中678名(9.0%)が分娩前に、61名(0.8%)が分娩前または分娩中にチクングニヤウイルスに感染していた。早期の胎児死亡3例を除き、垂直感染はほぼ満期出産の分娩時ウイルス血症で観察され、分娩時ウイルス血症産婦39名からの垂直感染は19例(48.7%)であった。帝王切開では感染を避けなかった。感染した新生児は出生後3-7日目に発病し、10例(52.6%)で重症となり、うち9例(90%)が脳症であった |
| 82 | チクングニヤウイルス感染 | ProMED-mail20080104.0051 | インドネシアBandarlampungでは2007年12月に数千人がチクングニヤに感染した。最悪感染地域のWaydadi地区では3自治会で500名近くの住民が感染した。感染は2007年11月に始まり、Bandarlampungの多くの地区に広がった。 |
| 83 | チクングニヤウイルス感染 | ProMED-mail20080109.0106 | 台湾CDCは2007年12月28日および30日にチクングニヤの輸入症例2例を検査により特定した。この2例はいずれもインドネシア人で各々、12月20日および27日に発症した。 |
| 84 | チクングニヤウイルス感染 | ProMED-mail20080428.1470 | 台湾Taoyuan郡保健省は2008年4月23日、北部で今年初めてのチクングニヤ熱症例を確認した。患者は58歳の台湾人ビジネスマンで、2008年の3月26日から4月9日に上海、4月9日から19日にジャカルタに旅行した。 |
| 85 | 手足口病 | WHO 2008年5月1日 | 中国におけるエンテロウイルス: 2008年4月29日現在、中国で乳幼児におけるエンテロウイルス(EV-71)による手足口病が死亡20例を含む1884症例報告されている。死亡20例はAnhui省Fuyang市である。死亡例は全てEV-71感染による神経原性肺水腫のような重症の合併症により死亡した。全症例の死亡率は3月10-31日は11%であったが、4月17-29日には0.2%に減少した。 |
| 86 | デング熱 | CDC/Travelers' Health 2008年7月24日 | ブラジルでは2007年に続き、2008年もデング熱の大きなアウトブレイクが報告されている。保健当局によると、2008年3月28日現在、デング熱総症例数は120570例で、その内、デング出血熱647例、死亡48例である。リオデジャネイロでは2008年4月10日現在、デング熱総症例数は75399例で、その内、死亡80例である。ブラジルへの旅行者は蚊に刺されないよう十分注意すべきである。 |
| 87 | デング熱 | ProMED-mail20070924.3165 | タイ保健省によれば、2007年1月1日~9月8日におけるデング熱感染症例は41975例であり、うち47例が死亡した。インドネシアでは16万例を超えており、ビルマ(ミャンマー)では計11577例、カンボジアでは25000例(15才未満の小児300例が死亡)が感染した。マレーシアでは感染が50%急増し、2007年6月に56例が死亡、7月は毎週1000例以上の患者が入院した。ベトナムでは2006年より40%増加し、33000例が感染し、32例が死亡した。 |
| 88 | デング熱 | ProMED-mail20071030.3516 | ベトナム保健省は洪水多発地域で新たなデング熱アウトブレイクの危険性が高いため、州や市へデング熱防御および抑制のための厳格な手段をとるよう命令した。同国では今年(2007年)、デング熱症例が80000例近く発生しており、うち68例が死亡した。パキスタンKarachiではデング熱症例は2007年8月以降上昇し、1527例となったと地方保健局が2007年10月23日に発表した。別の地域で新たに48例が報告された。 |
| 89 | デング熱 | ProMED-mail20071227.4147 | インドネシアCentral Java保健サービスは、2007年1月から12月までにデング熱に住民11636名が感染し、うち217名が死亡したと発表した。2007年1-11月の同市での発生率は4.95/10000人で、2006年の3.37/10000人より高かった。 |
| 90 | デング熱 | ProMED-mail20080120.0255 | カンボジアでは2007年にデング熱により407名が死亡し、最近10年間で最高の死亡者数となったと保健省は2008年1月4日に発表した。死亡例の大部分は小児であった。デング熱は同国における慢性的な問題であるが、2007年は雨季の到来が例年より早かったことも原因であるとしている。 |

| | | | |
|-----|------|--------------------------|--|
| 91 | デング熱 | ProMED-mail20080211.0549 | ブラジルにおいて2007年のデング熱による死亡症例数は158例で、2006年の78例の2倍以上であった。2008年1月になり減少している。2008年2月4日に発行された保健省の冊子によると、2007年に全国で559954例のデング症例が登録され、このうち1541例がデング熱であった。Parana州南部地域では2007年12月のデング熱届出症例数は8356例となり、2006年同時期と比較して827%増加した。 |
| 92 | デング熱 | ProMED-mail20080218.0662 | タイでは2008年になってから今までに4名がデング熱で死亡し、累積患者数は1ヶ月で2824名となった。患者の70%は中部地方の住民である。2007年の同時期の患者数は1702名で、死亡例はない。2007年のデング熱患者数は約60000名で、死亡数は29名である。 |
| 93 | デング熱 | ProMED-mail20080309.0962 | トンガVaiola病院からの報告によると、2008年3月2日までにデング熱により2名が死亡した。23歳の警察官1名と、幼児1名が、デング熱の重症合併症により死亡した。2007年6月から12月にかけて、デング熱流行が発生し、当時死亡した患者は1名であった。このほか、50-60名の患者が治療を受けた。しかし、2008年、デング熱感染患者は3倍に増加し、200名以上が治療を受けている。 |
| 94 | デング熱 | ProMED-mail20080321.1080 | メキシコでは最近4年間で古典的デング熱およびデング出血熱症例が2003年の6400例から2007年の48000例となり、750%増加した。感染の80%は南東部、主にVeracruzおよびChiapasに集中している。2007年には国内の28州において10例の死亡を含むアウトブレイクが記録された。 |
| 95 | デング熱 | ProMED-mail20080401.1198 | 2008年3月26日現在、フィリピンIlocos Norteで2008年に記録されたデング熱感染者数は90名で、うち2名は死亡例である。ニューカレドニアにおけるデング熱症例数は2008年2月の流行発生以降、増加を続け、3月初旬は72症例であったが、3月20日には215例以上に急増し、3月28日には263例以上となった。ブラジル保健当局は2008年1月1日以降、国内におけるデング出血熱406例(死亡34例を含む)を報告した。2007年同時期と比べ著しく増加している。 |
| 96 | デング熱 | ProMED-mail20080421.1411 | 1ヶ月近頃の豪雨のため、ブラジル北東部におけるデング熱届出数は2007年同時期より48%多く、デング熱確定死亡例は23例で、デング熱疑い死亡例は56例である。Sergipe州は最もデング熱が増加した州であり、2008年1-4月のデング熱症例は2007年同時期より1226%増加した。またRio Grande do Norte州では2008年のデング出血熱症例の届出は577例で2007年同時期と比較して約10倍に増加した。 |
| 97 | デング熱 | ProMED-mail20080525.1716 | ホーチミン市保健当局は2008年5月20日に、同市では3000名以上の小児がデング熱に罹患し、昨年の2倍であると報告した。第一小児病院デング熱科の入院患者数は、先週1日20-30名であったが、現在は40-60名に増加した。メコンデルタ地方では2008年になってから今までに10000例以上がデング熱に罹患した。 |
| 98 | デング熱 | ProMED-mail20080603.1776 | 2008年5月28日、ブラジルRio de Janeiroでは、今年になってから162701例のデング熱症例が報告され、その内、死亡例は123例で、更に116例のデング熱疑い死亡例を調査中であると保健局が発表した。また、保健局発表によると、2008年5月21日現在、ブラジルSergipeでは20174例が報告され、8726例が確定された。2008年4月は10万人当たり652.4例の発生率であったが、5月には10万人当たり118.2例に減少した。 |
| 99 | デング熱 | ProMED-mail20080618.1901 | マニラCaloocan市保健当局は2008年1月1日から5月29日にデング熱症例630例、うち5例は死亡例を記録したと発表した。これは2007年同時期と比較して2倍の増加である。 |
| 100 | デング熱 | ProMED-mail20080622.1933 | ベトナム南部の複数の省においてデング熱症例約5000例が発生し、Tien Giang, Ca Mau, Bac Lieuなどの省で増加が予想されている。Ca Mau省の予防衛生センターによると、2008年6月18日までのデング熱の発生は2007年同時期と比較して2倍となる1000例以上となった。流行はまだ増加傾向にある。 |

| | | | |
|-----|--------------|--|---|
| 101 | デング熱 | Transfusion 2008; 48: 1342-1347 | 高力価の培養デングウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化・除去に有効であることが示された。 |
| 102 | アメリカトリパノソーマ症 | Clin Infect Dis 2008; 46: e44-47 | 血液製剤の輸血によりシャーガス病に感染し、死亡したスペイン人患者の寄生虫学的、血清学的疾患経過、ならびに供血者の調査の報告である。患者は白血病の既往があり、176名以上の供血者由来の輸血を受けていた。臍帯血移植のための免疫抑制状態で、寄生虫が血液脳関門を通過して神経系に感染したことが確認された。特定された供血者は無症候であった。複数回輸血患者は、免疫抑制剤治療実施前に、抗Trypanosoma cruzi抗体のスクリーニングを受けるべきである。 |
| 103 | アメリカトリパノソーマ症 | Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 39 | 米国で全供血者を対象にしたTripanosoma Cruzi検査が導入された2007年1月30日以降、最初の10ヶ月間、供血者の調査を行った。適合供血のうちELISA法で反復陽性(RR)となったのは0.013%(90/651471)で、そのうちRIPA陽性は34%(28/82)で、陽性確認率は0.0043%であった。全供血のスクリーニングは費用対効果が低く、出生地と初回供血者に絞った対策の検討が示唆された。 |
| 104 | アメリカトリパノソーマ症 | 第48回 日本熱帯医学会大会 2007年10月12-13日 12C-02 | 日本におけるラテンアメリカ人の慢性シャーガス病キャリアーからの献血についての対策を検討した。カーミC液(CPD液)を用いてT.Cruzi感染マウス血液を4°Cにて1-21日間保存処理を行ったところ、マウスへの感染性は無処理のものと差異は無かったが、病原性はかなり減弱することが示された。しかし、T.Cruzi虫体はほとんどの白血球除去フィルターを通過した。現在の保存血液提供システムはシャーガス病の輸血感染防止には不十分であり、対策の改善が必要である。 |
| 105 | バベシア症 | American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008年6月1-5日、Boston | 米国中南部では稀な輸血によると考えられるBabesia microti感染症例の報告である。61歳の女性患者で、赤血球輸血後、吐き気と発熱を訴え、敗血症の症状を呈し、死亡した。血液塗抹標本で赤血球の5~15%にトロフォゾイト(栄養体)があった。患者血液検体中でBabesiaは形態学的に確認され、PCRでB. microti陽性であった。輸血された製剤の供血者のうち1名がB. microti陽性であった。 |
| 106 | バベシア症 | Blood 2007; 110: 853 | 米国コネチカット州での輸血によるBabesia microti感染の危険性を評価するため、2004-2007年に収集されたドナーとレシipientの保存検体を検査した。その結果、45回の赤血球輸血を受けていた患者1例でBabesia microti感染が確認されたが、血清検体陽性のドナーを特定することはできなかった。危険性は1920回の赤血球輸血で0例または1例と計算された。 |
| 107 | パルボウイルス | FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案) | 血漿由来製品によるパルボウイルスB19伝播リスクを低減するための核酸増幅検査(NAT)についてのガイダンス案が示された。全ての血漿由来製剤について、製造プール中のパルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷を確実に10000 IU/ml未満とするため、製造過程の品質管理検査としてNATを実施すべきである。ミニプール中でのNATの感度は少なくとも1000000 IU/mlとすべきである。これらの基準を超えるものは使用してはならない。 |
| 108 | パルボウイルス | Transfusion 2007; 47: 1775-1782 | ドイツ及びオーストリアで2003-2006年の計280万の供血検体をパルボウイルスB19(B19V)についてミニプールNATによりスクリーニングした。その結果、10万 IU/ml以上は10万供血当たり12.7、10万 IU/ml未満は10万供血当たり261.5であった。10万 IU/ml未満のB19Vを含有する検体では全てに中和抗体(VP2)が検出された。10万 IU/ml未満のB19 DNA陽性血液製剤は高濃度の中和抗体を含有するため安全であると思われる。 |
| 109 | パルボウイルス | Transfusion 2008; 48: 1036-1037 | 大阪における1997-1999年の献血者979052名中102名がヒトパルボウイルスB19感染者であった。B19感染者のうち20名のB19 DNA、IgGおよびIgMを長期間フォローアップしたところ、B19持続感染が観察されたが、B19感染の症状を報告した者はいなかった。B19急性感染後の血漿ウイルス力価は約1年で10 ⁴ IU/mL未満、約2年で10 ¹ IU/mL未満まで下がることが示された。 |
| 110 | パルボウイルス | Transfusion 2008; 48: 178-186 | B19V IgG力価に関係したB19V中和の役割を検討するため、製造血漿プール1000以上について酵素免疫測定法による検査を実施した。血漿プールは平均33±9IU/mL(最小値11IU/mL)のB19V IgG力価を含有し、これらの11IU/mLのB19V IgGは、B19V遺伝子型1の感染性を4.6 log、遺伝子型2の感染性を3.9 log以上を中和した。このため、このようなプール由来の10%静注用免疫グロブリン製剤(IVIg)は、さらに高いB19V中和活性を含有することが明らかとなった。 |